

「第4回 小樽市雪対策基本計画策定 懇話会」意見交換内容（概要版）

日時：令和2年2月14日 10:00～11:30

場所：小樽市消防庁舎6階 講堂

出席者：委員10名

オブザーバー 2名

傍聴者： 2名

事務局： 5名

○：委員からの意見等

→：事務局の意見等

()：補足説明

1 地域で支え合う雪対策

- 若い人の力を活用するために、例えば、学校（高校）のカリキュラムの中に冬場は、除雪を科目に入れるなどの発想があってもいいのかなと思います。
- 福祉除雪の財源は、共同募金であります。町会の方が1件、1件回っての募金も今は難しくなっています。福祉除雪を手厚くする財源がない中での維持は非常に困難なので、ほかの方法も考えていかなければならないと考えています。
- 冬休み明けに、集団下校を行っています。地域の危ない箇所を先生と生徒と一緒に下校することにより、危険な箇所や除雪の必要性を確認してもらえればと思います。
- 雪教育 雪で遊ぶ、除雪等を含めた観点で計画に盛り込めないでしょうか。
→次世代の子供たちに向けて除雪のPRと情報発信や、子供たちからの情報をいただきたいと思っています。
- 福祉除雪のPR活動について、具体的にどのような取り組みをされているのか教えてください。
- 福祉協議会では、「除雪ボランティア講座」のパンフを作成しました。町内会の回覧や公共の施設に置いていただき、受講した方の中から13名の方に登録いただくことができました。
→分科会においても、「除雪ボランティア講座」について、町内の方々に広めていただくようにご案内しています。
- 除雪ボランティアが中々集まらないということですが、ボランティアさんが1回出たらポイント等が貯まる制度のようなものを導入するのも楽しみながら取り組める一つの方法になると思います。
- 大学でも社会ボランティアを単位化しようという話があります。
学生をボランティアに参加する仕組みになるかもしれません。
- ボランティアというのは、本来、無償というのが基本的な考えだと思います。
協働の関係では、町内でごみ収集の活動がありますが、ごみを雪に変えて行えばどうかと思います。
自分の身の廻りの道路は町内で行うなど、除雪機が班単位であればいいのではと思います。
- 子供達の若い力は必要だと思います。子供の体力向上や教育になるということであれば良いと思います。
- ボランティアには何らかの動機付けが必要なのだと思います。
- 小型除雪機の購入支援について、町会により広い所には1台ではなく、2、3台くらい必要な地域もあると思いますので、複数台数の支援についても計画に書いてほしい。
- 小中学校では指導する教育内容は決められているので、若い力、ボランティアをどう使っていくかということは、非常に難しい問題です。
今は防災教育という観点が非常に重要になってきています。
自然災害（津波・地震）が主ですが、北国では雪に関する防災が非常に重要になってきます。

- 冬ですと雪に親しむと言うことで、各学校が雪あかりの路に参加しています。
イベントに参加するという事と同時に、自分の身を守るということを体験できることに携われると思います。
- 今の除雪計画の中で、学校教育という観点を、今後は考えていく必要があると思います。

2 地域の実情に応じた雪対策

- 町会支援員制度の活用について、市も各町会に対してエリア毎に、支援する方々が決まっていると思いますので、積極的に動いていただきたいと思います。

3 その他

- 効率的な雪対策の充実について、長期ビジョンにたった施策を入れてほしいと思います。
雪の処理を行う上で、流雪溝、排雪溝を、市内の全てではありませんが、活用できるエリアがあると思います。
- 市民の皆様へ、除排雪の作業情報を事前にお知らせすることが必要と感じています。